

聖ヶ丘3丁目団地 第3回 放射線空間線量率測定結果について

1. 日 時: 2012年3月11日(日) 10時~12時
2. 測定場所: 団地内の定点場所及び特異な線量の求められる場所(ホットスポットなどの確認)
3. 測定器:
 定点測定用: アロカ製 TCS-172型 NaI(Tl)シンチレーション式サーベーター
 定点測定及びスポット確認用: 堀場製 PA-1000型 CsI(Tl)シンチレーション式線量計
4. 測定場所及び測定結果
 別紙参照
5. 測定結果の評価
 - (1). 前回測定(2011年11月9日)結果と比較し、特に有意な変化は認められない。
 - (2). 団地内の空間線量率分布に大きな差異は認められない。
 - (3). 雨水が集積する場所には土壌の陰イオンと結合したセシウムが移行することなく滞留しているものと推定される。集会所の雨水の集まる場所に顕著に認められ、東京電力福島原子力発電所の事故に伴い放出されたものと推定される。(詳細な評価は、 ^{137}Cs 及び ^{134}Cs の同位体存在比などから推定することが必要となる。)
 - (4). 降雨が樹木の幹を通して根元に流れた場所の近傍の線量率が高いことが推定される。
 - (5). 同じ場所において、地表面からの距離を変えて測定した結果、地表面から1mの高さの線量が地表面の線量に比べて低いことが確認された。これは、地面に堆積する放射性物質の影響が顕著であるといえる。(地上に建物や樹木に蓄積する放射性物質からの影響に比して)——大島さんの測定結果に顕著に表れているといえる。

聖ヶ丘3丁目団地 第3回(補足) 放射線空間線量率測定結果について

3月11日に実施した測定の補足を目的として追加測定を実施した。

1. 日時: 2012年3月16日(金)15時~
2. 測定場所: 団地内の定点場所(団地内案内板設置場所)及び3月11日測定場所(線量率の比較)
3. 測定器:
 定点測定用: 堀場製PA-300型CsI(Tl)シンチレーション式線量計
4. 測定場所及び測定結果
 別紙参照
5. 測定結果の評価
 - (1). 第3回目測定(2012年3月11日)結果と比較し、特に有意な変化は認められない。
 - (2). 団地内の空間線量率分布に大きな差異(ホットスポットの存在など)は認められないが、一部に線量の高い点場認められる。これは測定点が傾斜のある土壌の上や芝生などの枯葉の上などによる違いに起因することも考えられる。
 - (3). 枯葉に覆われた地表面上で、1m位の場所の違いによる線量率の差異が認められる。特に樹木の根元の線量が高く、これは、降雨が樹木の幹を通して根元に流れたことによると推定される。

第4回目以降の定期測定にあたって

1. 測定点の設定について、過去3回の測定結果をもとに測定点(定点)を設定することが望ましい。
2. 雨水などの集積する場所の推移を確認し、必要に応じて除染を行うなどの対策をとることが住民の安心感の醸成につながるものとする。
 この場合、除染した汚染土壌などを自治体が回収し、処分することを要求することは困難であると想定されることから少し深い穴を掘り、その中に埋めて飛散しない対策をとることも有効であると考えられる。